

『ケアプランデータ連携システム』を活用した 生産性向上への取り組み



令和6年12月12日

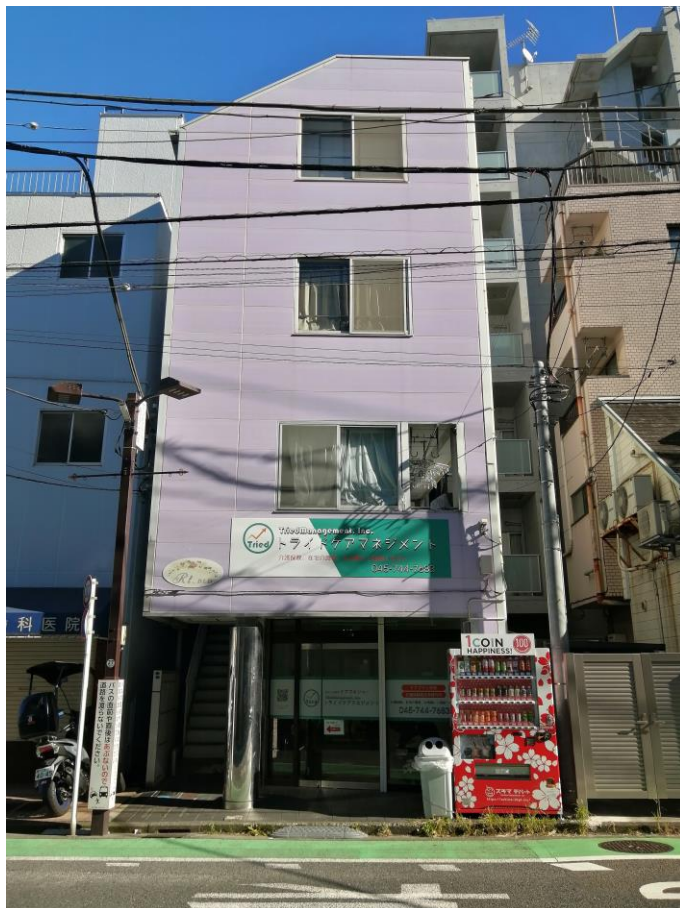
株式会社トライドマネジメント 代表取締役 長谷川 徹
(単独型居宅介護支援 トライドケアマネジメント運営)

横浜市西区久保町20-17RTビル1階

<https://tried-management.co.jp/>

【事業所・施設概要】

- 2016年11月 (株)トライドマネジメント設立
- 2017年2月 単独型居宅介護支援事業所
トライドケアマネジメント開所



【事業所・施設概要】



【職員】

- ケアマネ11名
- 事務スタッフ3名

【取得加算】

- 特定事業所加算Ⅰ
- 医療介護連携加算

【利用者数】

- 370名

【取引事業者数】

- 250社

※令和6年11月現在

【効率化を求めた取り組み】

《今までの効率化を求めた取り組み》

- ・ 介護ソフト…クラウド型介護ソフト(トリケアトプス)
 - ・ 利用者宅での記録入力…モバイルPC + SIM (モバイルネットワーク)
 - ・ 情報伝達、共有、行動予定の管理…ビジネスチャット(ラインワークス)
 - ・ テレワーク…モバイルPC、クラウド型サーバー(ドロップボックス)
 - ・ セキュリティ…UTMの導入
 - ・ 直行直帰…朝夕等の無駄な時間を削減
 - ・ 事務スタッフの協力
- ⇒ 事務スタッフがケアマネ業務の一部代行
- ・ 上記のアイテムや取り組みは必須。

※2021年の法改正から、**全員が逡減制39→44件(要介護換算)**に変更。
これらの取り組みで、**残業はほぼなし。**

【これだけやっても解決しない課題】

- ・ 『**大量の紙業務**』に伴う、労力と経費問題。
- ⇒ ケアプランデータ連携システム(在宅介護保険業界のDX)



【更なる効率化を求めた取り組み】

《明らかな課題》



『とにかく紙が多い！』

- 毎月FAXで送る提供票の紙の量は利用者数が増えれば増える程膨大に。
※毎月、2100枚
- ケアプランは印刷し郵送。
⇒ 今年10月～郵送代はUP。84円・94円共に110円へ。
もはや郵送で送る意味があるのか？
- 事業所の規模にかかわらず、必ず労力と経費が掛かってくる。
- 介護保険制度開始から当たり前のように行われてきたローカル作業。

【更なる効率化を求めた取り組み】

《明らかな課題》



- 紙の購入 → 印刷 → 事務スタッフが労力をかけ FAXか郵送 → FAXについては、翌月シュレッダー。

※毎月が負のサイクル

※ごみの価格800円

⇒ このご時世、もう少し効率化できないものなのか？

【更なる効率化を求めた取り組み】

《負のサイクルを終わりにしたかった》

- 紙の購入 → 印刷 → 事務スタッフが労力をかけFAXか郵送 → FAXについては、翌月シュレッダー → お金をかけて捨てる
 - この負のサイクルを最も感じ取るのが、その業務を担当しているスタッフ(ケアマネや事務スタッフ)。
- ⇒ 人は虚しさを感じ続けるとやる気を失う。
- ⇒ このご時世、こんなに沢山の紙業務はあり得ない。
- ⇒ もう我慢の限界。



【導入にあたっての失敗と気づき】

《介護業界は驚くほどのローカル思考》

- 各事業所と話して見えてきたことは、既に紙媒体での仕事が当たり前になっており、想像以上に**介護業界は、慢性的なローカル思考**であることを痛感、、、
 - 学者や業界メディア、研修機関の注目度は高いものの、残念なことに現場で**働く人たちが最も遅れている、、、**
 - 現場のスタッフはもちろんだが、**事務スタッフは提供票と実績が著しい負担**になっている。
- ⇒ この問題は大きい！



【導入にあたっての失敗と気づき】

《介護業界がローカルから抜け出せない要因》

【導入から一年で見えてきたこと】

- **問題①経営者**

⇒ 年配の経営者が多く、ICTへの関心、リテラシーが低い。現場は必要性を認識していても動かない経営者が多い。イメージできていない。

- **問題②働く人**

⇒ 介護業界で働く人は中高年が多い。①同様にICTへの関心、リテラシーが低い。忙しいにもかかわらず、今のやり方や拘りが障壁になり一歩踏み出せない。義務でもないし、自分たちはまだ大丈夫だと思っている。

- **問題③小規模事業所が多い**

⇒ 小規模事業所であればあるほど、現場社長が多く効率化を考える余裕がない。又、年間使用料21,000円が高いとの意見も。

【導入にあたっての失敗と気づき】

《介護業界がローカルから抜け出せない要因》

「ケアプランデータ連携システム」ベンダー試験の結果について

下記会社から「ケアプランデータ連携システム」ベンダー試験のお申込みを受け、各試験を実施完了しております。
各社の試験完了については、表内のデータ連携試験区分(D1:サービス計画書の作成、D2:利用票(予定)の作成、D3:利用票(実績)の作成)に○印を付与しています。
尚、標準仕様に準じたCSVファイルのデータ出力・取込機能については、ベンダー各社がHPで掲載されている機能対応表にてご確認ください。

<ベンダー試験実施状況 (50音順)>

2024年11月7日 更新

	ベンダー会社名	パッケージソフト名	データ連携試験 区分			ベンダー各社の掲載URL	機能 対応表 の掲載
			D1 計画書 (1,2表)	D2 予定 (6,7表)	D3 実績 (8表)		
ア行	株式会社アル・シー・エス	Rely(リイ)	○	○	○	https://www.a-rs.co.jp/archives/7356	掲載済
	株式会社IT開発研究所	いきいき訪看、いきいき訪問リハ	○	○	○		
	株式会社あっとまけあネットワーク	まけあネットワークシステム、まけあ伝送		○	○	https://www.rakucare.net/raku.html#careplan	掲載済
	アトラス情報サービス株式会社	介護エイド	○	○	○	https://www.kajinoid.co.jp/	掲載済
	アトラス情報サービス株式会社	地域包括ケア支援システム「Smile Compass」		○	○	https://www.atlas-is.co.jp/business_guide/comprehensivecare.html#careplan-tenbei	掲載済
	株式会社eWell	訪問看護専用 電子カルテ「iBow(アイボウ)」			○		
	株式会社エムエスシー	ケアストーリー		○	○	http://rakucare.co.jp/kasaga/	掲載済
	株式会社EMシステムズ	すこやかサン	○	○	○	https://emsystems.co.jp/promotion/sukoyakan/	掲載済
	株式会社EMシステムズ	MAPs for NURSING CARE	○	○	○	https://service.emsystems.co.jp/map_series_for_nursingcare/	掲載済
	株式会社インタートラスト	まもる君クラウド	○	○	○	https://kajinintertrust.jp/2023/06/28/careplan-pass/	掲載済
	株式会社インフォ・テック	介五郎	○	○	○	https://www.info-tec.co.jp/news/20230223/	
	株式会社内田洋行	絆Core高齢者介護システム	○	○	○	https://www.uchida.co.jp/system/info/2023/20230004.html	掲載済
	エーケービジネス株式会社	トータル社会福祉システム「希望」PLUS II	○	○	○	http://www.akbusiness.co.jp/ncscom001.html	掲載済
	エコーインテック株式会社	福寿			○		
	SOTシステムコミュニティ株式会社	地域包括ケアシステム Attend		○	○	https://www.sotvsystem.co/	掲載済
	NCS&A株式会社	福祉用具関連業務トータルシステム (SWATplus)			○	https://ncsa.co.jp/services/service/care/swat	掲載済
	エス・デソフトウェア株式会社	ほのぼのNEXT (ほのぼのシリーズ)	○	○	○	https://www.odsoft.co.jp/info/news/228731	掲載済
	株式会社エフワン	ケアマネッ子		○	○		
	株式会社 OMIS	OMIS			○		
	同谷システム株式会社	トリケアトプス	○	○	○	https://www.tricare.co.jp/news/1175/	掲載済
カ行	株式会社カナミックネットワーク	介護ソフト・地域包括ケア(医療介護連携システム)の カナミッククラウドサービス	○	○	○	https://www.kanemic.net/tenbei/careplan.aspx.html	
	株式会社キャロツシステム	ケアキャロット	○	○	○	https://www.carecta-system.co.jp/item/D6careplanrahei.html	掲載済
	株式会社 協同測量社	ケアネット支援システム、介護サービス支援システム	○	○	○	https://kyo-tooku.co.jp/news/news-425/	
	株式会社クシムソフト	CareOnline			○		
	株式会社グッドツリー	ケア樹	○	○	○	https://caretree.jp/archives/13104	掲載済
	株式会社 熊本計算センター	「楽園」介護保険システム	○	○	○	https://www.kkc-net.co.jp/products/qaokana/rakuen_kajin/	掲載済
	株式会社ケアコネクトジャパン	CAREKARTE	○	○	○	https://this.forse.com/superfex/a/article/00000838	掲載済
	ケアコラボ株式会社	ケアコラボ	○			https://page.carecolabo.jp/https://careplansystem-202401/	掲載済
	株式会社五大オーエー	ASP介護保険システム	○	○	○	https://podeia.com/careplanssystem/	
	株式会社コンダクト	介護保険システム Flowers NEXT	○	○	○	https://www.conduct.co.jp/news/flowers-next-entry-407.html	掲載済
サ行	サンテン株式会社	エスククラウド			○	https://santen-ipc.co.jp/news/archives/16	掲載済

問題④介護ソフトベンダー

⇒ 一年前と比べケアプランデータ連携システムに対応している介護ソフトがほとんど(1・2・6・7表にフル対応しているソフトがほとんどであり、最低でも6・7表に対応している)。

⇒ 対応していない、一部対応のみの介護ソフトなら、時代の流れにのれない介護ソフトベンダーであり、業界のDXを停滞させる大きな要因。

https://www.kokuho.or.jp/system/care/careplan/lib/241107_5113_cp-vender.pdf

【普及するために何ができるか？】

《導入当初から今に至るまでの取り組み》

事前のご確認

パソコン
OS：Windows10またはWindows11（最新のWindows Updateを適用していること）
推奨モニター解像度：1366×768ピクセル以上

ソフトウェア
ブラウザ：Microsoft Edge または Google Chrome
PDFビューアー：Adobe Acrobat Reader 推奨

よくある質問

Q. ケアプランデータ連携システムを導入するにはどのような準備が必要ですか？
A. 標準仕様に対応した介護ソフトの導入、クライアントソフトと電子証明書のインストール、システム利用申請が必要です。詳細は公式サポートサイト「ケアプランデータ連携システム導入フロー」をご参照ください。

Q. ライセンス料はいくらでしょうか？
A. 1事業所番号ごとに年間21,000円（税込）で、1年ごとに更新申請いただく必要があります。

Q. データ連携できる事業所を教えてください。
A. 福祉・保健・医療の総合情報サイト「WAM NET（ウムネット）」より検索することができます。
<https://www.wam.go.jp/wamappl/kpdrsys.nsf/top>

公式サイト

詳しいご説明を掲載したサイトをご用意。
使用開始までの手順などを動画つきで解説しています。

<https://www.careplan-renkei-support.jp/index.html>

ケアプラン ヘルプデスク 検索

QRコード

電話でのお問い合わせ
TEL 0120-584-708
受付時間 9:00～17:00（土日祝日は無休）
年末年始（12月29日～1月3日）は、お休みさせていただきます。

公式キャラクター「ケアプー」

2023.9

介護をつなぐ。心をつなげる。

ケアプラン
データ連携システム

ケアプラン
データ連携システム

ケアプランのやりとりを、
紙からデジタルへ。

公益社団法人
国民健康保険中央会
All-Japan Federation of National Health Insurance Organizations

ひと、くらし、あいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

- まずは各サービス依頼先TOP3の事業所に電話し、周知と導入の検討を依頼。
- 来社する事業所にはPRチラシを配り説明。
- サービス調整する際も電話で、地道に周知と導入の検討を依頼。とにかく周知し自分たちのスタンスを伝える。

【普及するために何ができるか？】

《webでのPR》

- 自社の**ブログ**等で進捗をUPし、考え方や価値を発信。



【普及するために何ができるか？】

《地道なPR》

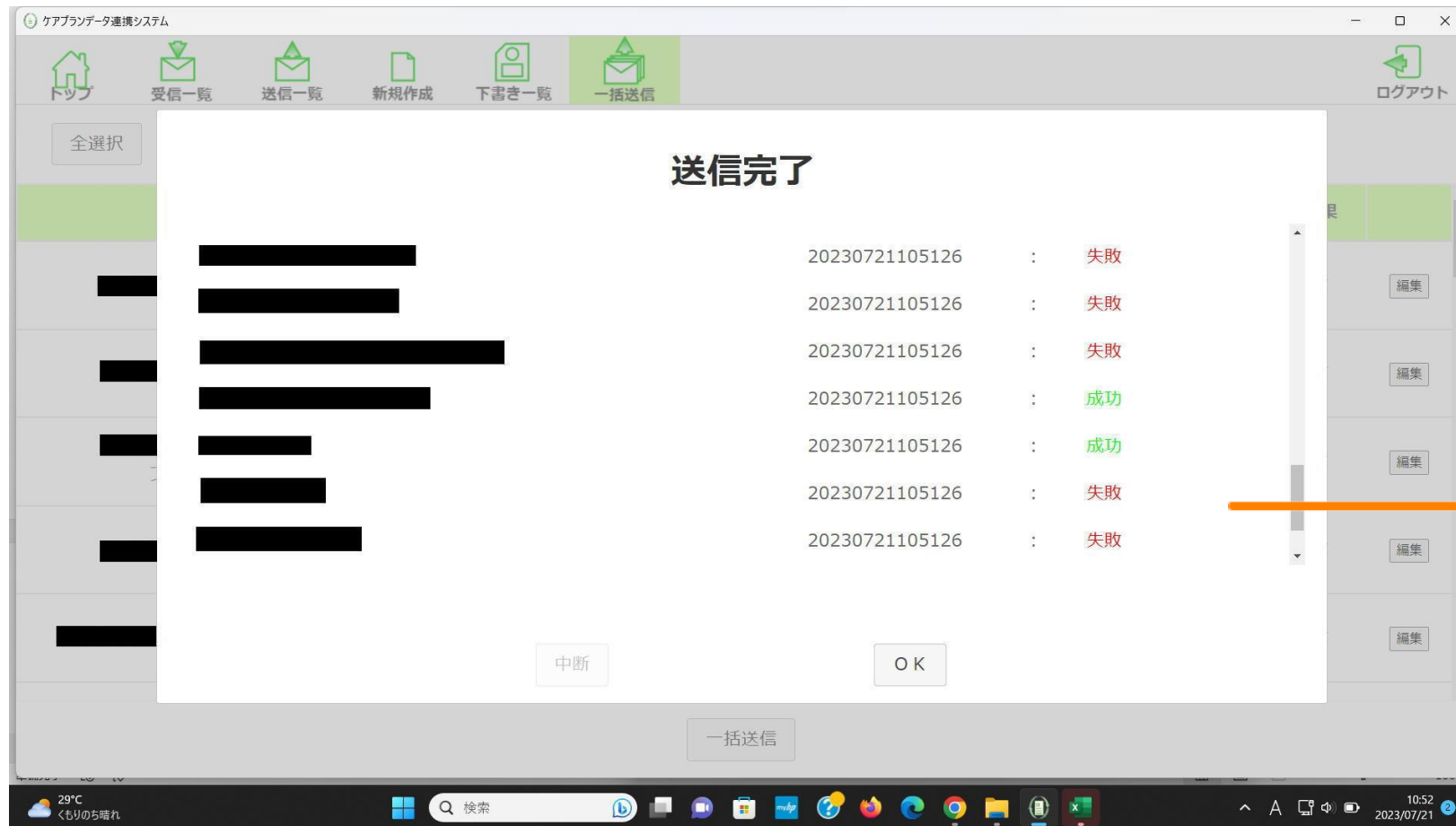
- ヘルプデスクの**ケアプーカード**を印刷しプランと一緒に送る。



<https://www.careplan-renkei-support.jp/chara/index.html>

【具体的な成果】

- 250社に370名分の提供票をケアプランデータ連携システムで送信したところ、かかった時間は30分程度。**1日**
がかりから30～35分に！時間の節約！事業所番号ごとの送信の為、誤送信がない。マスキングも必要なし。



【具体的な成果】



- 昨年5月、初めて60名の実績の取り込みができ感動！**時間は数分**。本当にすごいと感じた！

【現在】

- 31社と連携中。
 - 提供票と実績をデータ連携できる利用者数は**300名程**。**(csv:220名、PDF:80名)**
- ⇒ ベンダー試験に合格していない介護ソフトは安定感が低く、上手くいかないことも多い。

- 実績の取り込みに要する**時間は30分程**。
※数が増えれば時間もかかるが、そのまま待っているだけでいい。

【具体的な成果】

《比較》

項目	導入前	導入後	今後の予測
提供票FAXの紙	2,100枚/月	1,400枚/月（減）	更に削減できる
一か月の平均郵送代	13,500円/月	9,800円/月（減）	更に削減できる
担当件数	要介護換算44件	要介護のみで42～44件以上 ※一人3～5件（増）	維持、それ以上
1～10日までの平均訪問数	13件	18件（1.4倍UP、訪問件数が2倍になったCMも）	維持、それ以上
相談援助	大きなトラブルなし	大きなトラブルなし	維持
残業	ほぼなし	ほぼなし	維持
有給取得	1日/月（取得率80％）	1日/月（取得率80％）	維持、それ以上

【具体的な成果】

《その他》

- 業務フローが変化する時期だった為、時間をかけてスタッフが慣れることができた（重要ポイント）。
- 無駄を省く観点から、事務スタッフによるケアマネ業務の一部代行が加速した。
 - ⇒ 事務スタッフの役割が雑務からケアマネ目線に。
 - ⇒ 区役所への書類提出、アセス・担会・プラン・認定調査等の下準備等。
 - ⇒ ツールで縮められるものはツールで、人にしかできないことは事務スタッフで、ケアマネはケアマネにしかできないことをやる。
- 福祉用具事業者は、導入が早い傾向。
 - ⇒ 現在、福祉用具貸与の71%程が、データ連携でケアプランや提供票、実績を送受信している。
 - ⇒ 現在、福祉用具貸与の事業者選定基準は、①担当者は良い人、②サービスの質が担保されている、③無駄と経費を省いてくれる事業者。
- 今まで断っていた新規を受けることができ、給与と賞与が上がり年収がUPした。
 - ⇒ 今年は500万円プレーヤーが出る予定。
 - ⇒ 全体の平均年収が451万→470万程になる予定。

【今後得られるメリット】

《データ連携が進むと費用対効果が高くなる》

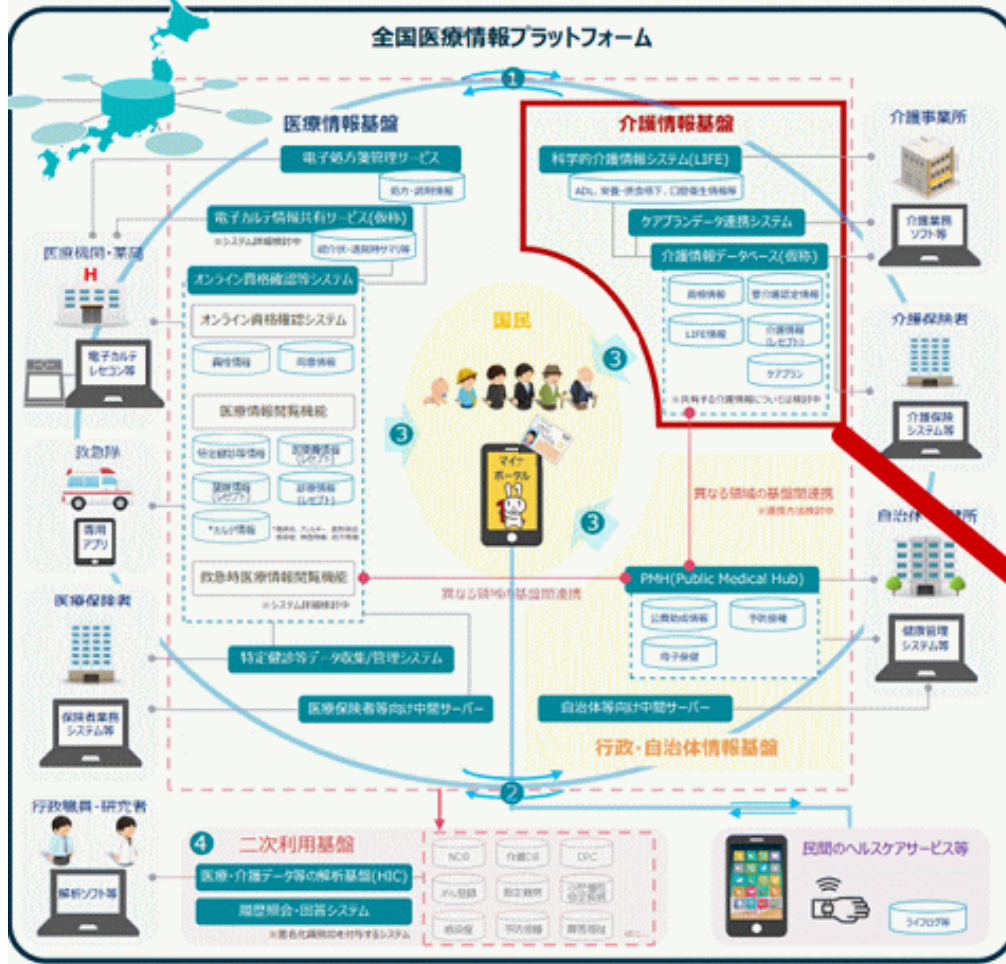


- 紙の購入→印刷→FAX→シュレッダー→お金をかけて捨てるといった負のサイクルが本当に終了する。
 - 100万円もするような大型の複合機がいずれ不要になる。
- ⇒ 全事業所がケアプランデータ連携システムを取り入れていたら、PDF・JPEGも送ることができる為、FAXは不要になる。

【今後の業界の流れ・変化】

《ケアプランデータ連携システムを取り入れなければならない理由》

全国医療情報プラットフォームの全体像（イメージ）



- ・ 介護情報基盤は令和8年4月開始予定、既に2年を切っている。
- ・ 2年以内に介護業界は大きくデジタル化される。
- ・ 介護情報基盤の一部として先に走り出しているのがケアプランデータ連携システム。

⇒ 要介護認定情報の電子化、介護保険被保険者証の電子化、ケアプランの電子交付等、多くのことが電子化されることで、介護事業のビジネスモデルが大きく転換する。



- ⇒ 介護事業所だけではなく、利用者、自治体、医療機関にとって大きな負担軽減。
- ⇒ このDXの流れに抗うことはできない。
- ⇒ ここで躓いている場合ではない。

【今後の業界の流れ・変化】

《保険者が導入・推進に動き出す》

横浜市の方針

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

横浜市では可能な限り早期に
市内の全事業所でシステムが導入・活用されている状態を目指す

◆ 目的

- システム導入により、介護事業所の業務負担を大幅に軽減
- 紙媒体やFAXを減らすことで、紙の管理コスト削減や情報漏洩リスクを低下
- 業務負担軽減で生み出した時間や人手の余裕を活用して、介護サービスの質の向上や従業員の処遇改善、ライフワークバランスの改善につなげる

- 今後は遅かれ早かれ保険者が動き出す。
⇒ 動きの早い一部の保険者は既に動き出している。
※弊社が事業運営する横浜市も導入・推進に動き出している。

【これから実践しようとしている方へ】

《介護ソフトが対応しているか？》



https://www.careplan-renkei-support.jp/download/index.html#download_form

【これから実践しようとしている方へ】

《今だからできる→小さく始めて小さく成功》



- 始まったばかりなので、居宅介護支援、サービス事業所共にデータの送受信がうまくいかない時もある。
⇒ うまくいかない時は何かしらの問題があるので、ヘルプデスクや介護ソフトベンダーに連絡。ソフト側の場合が多分ほとんどなので、updateを依頼。

⇒ 人も介護ソフトも20年以上紙文化だったので、いきなり上手いけなくなったり不思議じゃない。急にローカルからデジタルには変わらない為、取り入れる事業所が少ないうちから、小さく始めることで痛みを最小限に。

【これから実践しようとしている方へ】

《今何をすべきか》



- 今何をすべきなのか、現場から上司や経営者に世の中の流れを伝えるべき。
- ケアマネもサービス事業所もDX化によるビジネスモデルの変革期(介護業界のデジタル化)。
- 一歩踏み出す勇気が必要だが、その先の未来はプラスが多い。
- ケアマネジャーは介護保険の中心。ケアマネが動かなければサービス事業所は動かない。

※時間はかかるかもしれないが、負担が減ればスタッフが喜ぶ、売り上げも上がる(*´▽`*)

ご清聴ありがとうございました

【協力】

- トリケアトプス 近藤氏
- LAメディカルステーション 日向氏
- リハプライド保土ヶ谷 相原氏
- フロンティア横浜営業所 隅田氏
- 柴橋商会 介護用品新横浜営業所 木場氏
- トライドケアマネジメント スタッフ一同

【website】

- 野村総合研究所
- 厚生労働省
- 経済産業省
- ケアプランデータ連携システム ヘルプデスクサポート
- 横浜市、愛知県
- メディコム

